

▼二台ピアノと連弾の集い 「ベルゼール」

千葉フィルハーモニー  
管弦楽団 (批評は前ページ)

ベルゼール



弦楽合奏団  
「Souvenir della Musica」

▼新居由佳梨ラヴェル ピアノシリーズVol.2  
性格的小品、詩的な調べへのオマージュ

▼室内楽・器楽

▼弦楽合奏団 Souvenir della Musica 第8回演奏会「愛と業を描く」

ソーベニール・デラ・ムジカの「愛と業」をテーマにした演奏会はゲストの高木和弘(vn)のリードも見事に、息の合った、情感のある表現で聞かせた。ウエーベルンの『緩徐楽章』(元は弦楽四重奏の曲)では一体感があり、厚みのある音で表情豊かに奏でられた。次の3曲(横山真男編曲)、プッチーニの2曲では繊細な表現で、『菊』での悲しみにくれたような表情感、「ある晴れた日に」(『蝶々夫人』より)では劇的な表現で、情景をも想起させた。ワックスマンの『カルメン幻想曲』での高木のソロは技巧への対応をみせたものの、ただ本来の冴えはいまひとつ感じられなかった。

デーメルの詩に拠るシェーンベルクの『浄夜』では冒頭で、その邦訳を渡辺文子(S)が情感を込めての朗読、続く演奏は内容に合った表現で、高木の表現も光り、神秘的な雰囲気を作りつつ、男女の対話感や濃密な情況をも感じさせた。その結末での輝きに満ちた純真な表情感も印象を残した。(7月21日昼公演、東京杉並公会堂小ホール) (菅野泰彦)

# 音楽現代

The Ongakugakai

Vol. 44

No. 10

October

# 10

特別企画① 追悼 ロリン・マゼール

特別企画② 第25回 PMF (パシフィック・ミュージック・フェスティバル)

カラー口絵 第25回 パシフィック・ミュージック・フェスティバル  
第7回静岡国際オペラコンクール開催記念サマーセッション

インタビュー セルゲイ・ナカリャコフ、ティツィアーナ・ドゥカーティ  
オイロス・アンサンブル、他

クラシック音楽誌

特集

## 大音楽家たちが 影響を受けた人と思 思想・思潮

